

「角田市アジアの農民と手をつなぐ会」

[現在までの主な活動状況]

'90年 1月	角田市農協青年部（当時）主催による「アジアモンスーン稻作農民炉ばたまつり開催 *アジア5ヶ国の農民参加の下、農民の「自立と共生」をテーマにシンポジウムを開催。タイ・イサーン地方の現状を知る
'91年 6月 ~ 12月	タイ・イサーンの農民へ「農業学校」を贈る全国キャンペーン(生きるための共育農場)の展開
'91年 1月	青年部盟友2名がタイで開催された「アジアモンスーンファーマーズセミナー」に参加 * キャンペーンに寄せられた建設資金の目録を贈呈(2月に現地へ送金620万円) * 資金運用 セミナーハウスの建設、水路掘削、養魚用及び野菜の灌漑用地の掘削、地鶏、地蓋、牛等家畜の導入。果樹と多年生植物の植栽。センター(農場)の諸経費等
'93年 3月	現地農民及びネルダススタッフ参加の下「共育農場報告会」を角田で開催 * タイとの交流関係組織を、角田市農協青年部から角田市農協「アジアの農民と手をつなぐ会」に移行することに決定
'94年 1月	「手をつなぐ会」の世話人兼青年部盟友10名がタイ訪問 * 米事情及び、その後の進展状況、内容把握のために訪問し村民と交流
'95年 1月	「手をつなぐ会」の世話人6名がタイ訪問 * 今後の交流支援方策等について、現地農民、ネルダススタッフと意見交換
'95年 6月	郵政省（当時）より95年度の「国際ボランティア貯金」配分ダイatsbyの認可を受ける 配分額236万円 [援助事業内容] * 農民のための研修農場の設置 · 池堀・植林・畜舎、堆肥者設置・家畜の導入・農機の供与 * 農村女性の収入向上支援 · ミシンの導入 * 専門家派遣 · 農業技術指導等

'96年 6月	<p>援助事業の一環として、農業指導のため専門家（角田の農家）を現地へ派遣（2週間）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 堆肥作り（土作り）や、野菜の細微管理棟の技術指導に加え事業全般の管理にあたる <p>郵政省（当時）より'96年度の「国際ボランティア貯金」配分団体の認可を受ける 配分金額366万円</p> <p>〔援助事業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> * 農民のための農産物加工施設等の建設
'97年 6月	<p>郵政省（当時）より'97年度の「国際ボランティア貯金」配分の認可を受ける 配分金額 373万円</p> <p>〔援助事業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> * 農民の自立のための地域農業学習センター建設（6ヵ所） <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設整備建設・トイレ、水浴び場整備建設・学習資材導入・用水路、電設備整備 * 専門家派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・農業技術指導等
'97年 9月	<p>「足踏みミシンをタイ・イサーンの農村女性に贈ろう」募金展開</p> <ul style="list-style-type: none"> * 伊具高校及び角田女子高校文化祭にて
'97年 11月	<p>タイ・イサーン地域のN G O組織ネルダより中心スタッフ1名を角田へ招聘</p> <ul style="list-style-type: none"> * 11月22日～'98年1月11日までの約50日間、手をつなぐ会で 受入この間、角田の農業や農村生活、農協について勉強する
'97年 11月	<p>関係者及びネルダスタッフ立ち会いのもと「足踏みミシン計42台」を贈る出発式開催</p>
'98年 1月	<p>援助事業の一環として、農業指導のため専門家（角田の農業者）2名を派遣 同時に、JA角田市35周年企画「タイ・イサーン交流訪問ツアー」を開催</p>
'98年 7月	<p>援助事業の一環として、農業土木技術指導（底の抜けないため池作り）のため、専門家を現地へ派遣する</p> <ul style="list-style-type: none"> * 岩手大学名誉教授（前農学部長）石川 武男 氏 * 岩手大学農学部教授 馬場 秀和 氏 * お茶の水女子大学講師（当時） 小松 光一 氏
'99年 6月	<p>郵政省（当時）より'99年度の「国際ボランティア貯金」配分団体の認可を受ける 配分金額261万9千円</p> <p>〔援助事業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> * 山岳少数民族のための農業研修施設の建設等 タイ <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎建設（2棟） 学生兼スタッフ寮建設、耕耘機購入 * 専門家派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・農業技術指導等

'00年 1月	北タイ山岳民への援助事業の一環として農業指導のため当会の会員（農業者）を現地へ派遣 * 専門家派遣では、農業指導や食生活改善の指導に加え99年度援助事業の進捗状況の確認と事業全般の管理・調整にあたる
'00年 6月	JICA（国際協力事業団 当時）農業研修員の農家実習受入 * 中南米・大洋州・アジア諸国10ヶ国の10名
'00年 6月	郵政省（当時）より2000年度の「国際ボランティア貯金」配分団体の認可を受ける 配分金額101万3千円 〔援助事業内容〕 * 山岳少数民族のための農業研修施設の設置等〔タイ〕 ・深井戸設備、飲料水用タンク設備、電気配電設備 * 専門家派遣 ・農業技術指導等
'00年 11月	JICA（国際協力事業団 当時）委託事業（地方枠研修員事業）実施「農村女性の起業家の育成研修」 * イサーン地域で農村女性グループの縫製工場を指導・運営している責任者1名を招聘し、縫製・デザイン等の短期（1ヶ月）研修
'01年 1月	北タイ山岳民の援助事業の一環として、農業指導のため当会の会員（農業者）を現地へ派遣
'01年 3月	郵政事業庁（当時）より2001年度の「国際ボランティア貯金」配分団体の認可を受ける 配分金額249万5千円 〔援助事業内容〕 * 山岳集数民族のための農業研修施設の建設等〔タイ〕 ・ミシン工房建設・ミシン購入（10台） ・研修農場本館建設、食堂建設 * 専門家派遣 ・農業技術指導等
'01年 7月	みやぎNPO活動企画コンペの配分交付を受ける 交付金額20万円 〔援助事業内容〕 * イサーン縫製グループへの縫製技術指導のための専門家派遣事業〔タイ〕 ・より良い製品作りのための技術向上対策 ・後継者育成のための指導者育成
'02年 1月	北タイ山岳民の援助事業の一環として、農業指導のため当会の会員（農業者）を現地に派遣 * 全般的な管理・調整にあたる。次期プロジェクト地視察、今後の取り組み等について広く意見交換をする

'02年 7月	JICA（国際協力事業団 当時）農業研修員の農家実習受入 * アフリカ・中近東諸国8ヶ国よりの研修10名
'03年 6月	JICA（国際協力事業団 当時）農業研修員の農家実習受入 * キューバ共和国よりの研修員7名の農家実習受入 * 女性1名・男性6名（6月30日～7月5日）
'04年 7月	JICA（独立行政法人 国際協力機構）農業研修員の農家実習受入 * キューバ共和国よりの研修員10名 * 女性2名・男性8名（7月5日～9日） * 管内小学校3校と交流実施
'05年 7月	JICA（独立行政法人 国際協力機構）農業研修員の農家実習受入 * キューバ共和国・その他各国よりの研修員19名 * 女性4名・男性15名（7月11日～15日） * 野菜栽培コース 10名（女性2名 男性8名） * 稲作栽培コース 9名（女性）2名 男性7名 * 管内小学校5校と交流実施
'06年 1月	角田女子高・伊具高校より贈られた足踏みミシンを訪ねる旅実施 * 今後の交流・支援のあり方について現地で話し合いを持つ (1月3日～7日)

- その他
- ・'99年よりJICAの農業研修員の農家実習受入事業に、
 - ・'05年まで稲作・野菜コース合計35ヶ国76名受入
 - ・'97年「オリザ賞」第1回受賞する（宮城県農協中央会及び、河北新報社の創設による 賞状及び副賞50万円）
 - ・その他、臨時の訪問も多数受入している
 - ・毎年JAみやぎ仙南角田地区農協祭においてタイ・イサーンコーナーを設置し、イサーンの物産展示即売とJICAの写真パネル展示を行っている
 - ・食糧難に苦しむ北朝鮮への農業技術者派遣及び、北朝鮮からの訪問団受入など、多用な活動を行っている